

岩手日報

発行所
株式会社 岩手日報社
盛岡市丸の内3番7号
郵便番号 020-8622
電話番号 019(653)4111
振替口座 02360-6-2009
©岩手日報社 2009

日本経済新聞
2009年(平成21年)11月18日(水曜日)

いわて生活協同組合(岩手県滝沢村、池田和昌理事長)は東北・北海道の生協で初めてバイオディーゼルの精製設備を導入した。配送トラックの燃料に使用する。年間2万トンの軽油を削減、同生協の二酸化炭素(CO₂)排出量は0.4%減少する。地球温暖化防止対策の一環。
投資額は618万円。各店舗の総菜製造過程で出る廃油を原料にする。年間3万200

バイオディーゼル

いわて生協、精製設備導入

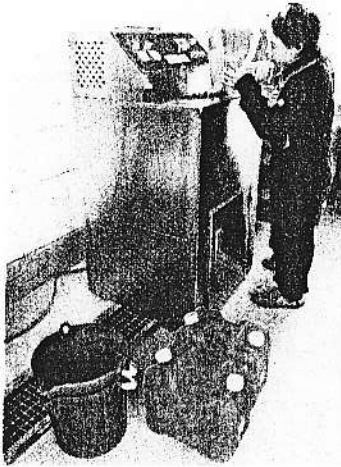
CO₂排出される廃油の70%を利用できると見ており、年間2万トンを精製する計画。廃油はこれまで飼料や肥料に再利用していた。
同生協には配送トラックが103台あり、このうち10台をバイオディーゼルの燃料に切り替える。
2006年以降、外部から購入してきたが、安定調達に難しくなってきたため、自前の設備を導入した。

精製設備あすから運用

いわて生協(本部滝沢村、池田和昌理事長、組合員約19万8千人)は、地球温暖化防止対策の一環で使用済み食用油(植物性)を活用したバイオディーゼル燃料(BDF)の精製設備を同生協本部構内に設置、20日から運用を始める。軽油の代替燃料として共同購入用の配送トラックに使用。県内店舗から排出される食廃油を活用、自前でBDFの精製を目指す。精製設備の運用は東北・北海道の生協で初。今後、組合員から食廃油を回収することも検討している。

いわて生協

廃棄物の削減やリサイクル推進など、環境トラック3台にBDF活動に取り組む同生協を使用し、現在5台は、2008年度からに拡大。燃費は軽油(1



いわて生協が20日から運用を始めるバイオディーゼル燃料精製設備。滝沢村の同生協本部

配送トラックに使用 CO₂年間56トンを削減

同生協が保有する共同購入用のトラックは約120台。さらにBDFの使用拡大を見据え、原料となる食廃油を組合員から回収することも検討している。年間2万トンの軽油をBDFに転換すると、排出量は56トンを削減し、CO₂排出量は56トンを削減する。環境負荷の軽減効果も期待される。
いわて生協共同購入運営部スタッフの阿部祐三さんは「循環型地域社会づくりに向け大きな意義のある取り組み。確実にCO₂が削減でき、経営貢献にもつながる」と期待する。運用を開始する20日には、滝沢村の同生協本部で開始式を行う。
原料は県内10店舗の総菜部門から排出される食廃油を活用。年間排出量3万2千トンのうち約7割(約2万2千トン)をバイオディーゼルの燃料(BDF)に使用できる。CO₂排出量はゼロ。「環境に優しい燃料」として公用車な油(植物性)から不純物を除去・精製したもの。いわて生協によると、本県では障害者施設など231の1つ。軽油代替燃料カ所で精製設備を設けてとして注目を集め、通常の